

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社三五 福田池下工場	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県みよし市福田池下3番8, 3番14, 16番4, 明和町目地40番7	構造	S造
用途地域	工業専用地域、指定なし	平均居住人員	150人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,856時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年3月 予定	評価の実施日	2025年11月6日
敷地面積	29,101 m ²	作成者	吉岡 禎
建築面積	14,093 m ²	確認日	2025年11月7日
延床面積	19,701 m ²	確認者	吉岡 禎

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 86% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 86%

④上記+: 86%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性: N.A. 耐用性: 3.0 対応性: 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

生物環境: 2.0 まちなみ: 3.0 地域性: 2.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

建物外皮の: 4.3 自然エネ: 4.0 設備システ: 3.9 効率的: 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

水資源: 3.4 非再生材の: 3.8 汚染物質: 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化: 3.6 地域環境: 3.0 周辺環境: 2.7

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 45.3%</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0%</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社三五 福田池下工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質												2.7
Q1 室内環境												
1 音環境												
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境												
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 室温		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 光・視環境												
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御		5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 空気質環境												
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能												
1 機能性												3.2
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性												3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.5	3.0	0.52	-	-	-	-	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	②	0.3	3.2	0.33	-	-	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	2.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	5.0	0.09	-	-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備		0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	
3 電気設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.4	3.4	0.48	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		平均階高:5.225m		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.04	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	2.5	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性		② こらがし配線や電線管の採用により、構造部材・仕上げ材を傷めることなく電気配線の更新・修繕ができる。 こらがし配線や電線管、OAプロアーの採用により、仕上げ材を傷めることなく通信配線の更新・修繕ができる。		3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	1.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	1.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.87	3.0	4.3	0.20	-	-	-	4.3
2 自然エネルギー利用		ユニーフ(トップライト)の採用	3.0	4.0	0.10	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.71	3.0	3.9	0.50	-	-	-	3.9
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		省水型機器(擬音装置)の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1階床下の押出法ポリスチレンフォーム断熱材、バリアフリートイレバック、大便器、小便器	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS下地・躯体と仕上げ材が容易に分別可能、OAプロアー・内装材と設備が絡みせず容易に分別可能	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		吹付硬質ウレタンフォームA種1Hを採用(QDP=0、GWP=1)		5.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		① ライフサイクルCO2排出率86%		3.5	0.33	-	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		独自 駐輪場、乗用車・荷捌き車両駐車スペースの確保		5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	2.7	0.33	-	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		独自		3.0	1.00	-	-	-	
2 振動		独自		-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	1.6	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

株式会社三五 福田池下工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:45.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社三五 福田池下工場

計画上の配慮事項	
総合	環境配慮の為、省エネ機器の採用、緑地の整備を行った。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・OAフローアーやころがし配線を採用し、構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができるよう配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地を設け、景観性に配慮した。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・高断熱、高効率設備を採用し省エネルギーに努めた。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・LGS下地を採用し、躯体と仕上げ材が容易に分別可能とした。 ・OAフローアーを採用し、内装材と設備が錯綜せず容易に分別可能とした。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地を設け、地表面の温度上昇の抑制に努めた。 ・駐輪場、その他駐車スペースを敷地内に適切量確保。
その他	特になし